

# からす新聞

第16号

## カラースTシャツ展示中



発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社  
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : [colors@go-karasu.com](mailto:colors@go-karasu.com)

私はかなりの寒がりである。日本で一番...とまでは言わないけれど、三番目くらいには入っているだろう。この夏期講習でも、私の部屋だけは電気式空調調節装置の世話になることなく、窓を開けて、夏という季節を満喫しながらの授業であった。

本来、日本は鮮やかな四季を持つ国である。ところが、技術の進歩のおかげで、少々様変わりしてきている。冷暖房器具の発達により至温はかなり快適に保つことが可能になったし、温室のおかげで一年中甘い蜜柑を食べられるようになった。吐息が白むような夜、炬燵にあたり蜜柑を剥く。そんな光景は冬だけの特権ではなくなってしまうてきている。ありがたいようだが、ありがたいくないようない。

室内に在る限り、季節の移ろいを実感するのはなかなか難しい。人それぞれであるうけれど、私の場合、新しい季節の到来を感じるのとは大概は単車に乗っているときである。空気の匂い、ちよつとした肌寒さ、雲の高さ、などなど種々些細なことが引き鉄になる。極めて直観的な、曖昧な基準による判断だ。

夏が過ぎて秋が来る。いずれ冬が来て、春が来て、また夏が来て。

言葉で書くと実に単純で当然のことのように思える。けれども、そこには人間の、アナログな事象をデジタルに切り分けるといふ、大きな能力が

働いている。当然のことだが、明確な季節の変わり目などというものは存在しない。昨日までは夏で今日から秋だとか、午後一時十七分までは冬で十八分から春だ、などという区別は不可能である。そもそも、時間に切れ目などないのだ。にもかかわらず、人は四季を感じ取る。そして、実しやかに時候の挨拶を交わしたりするわけだ。もともと区切りのないものを恣意的に切り分けるのだから、当然そこには個人差がある。私が秋になって風が気持ちいいなあ」と呟くとき、多くの生徒はまだ、あつつい「あー」などと連発している。それでも、一般に、私の夏と彼らの夏には大きな差はない。


御存知のように、私はコンピュータを多用し、大きに依存した生活を送っている。今まで私が出合った道具の中で最高のもののひとつではある。けれども、まだまだ不満もたくさんある。コンピュータとは直訳すれば計算機。得意分野は、当然、計算である。与えられたデータを計算・管理することには大きな力を発揮する。けれども、こんな簡単なことなのに...と嘆きたくなる瞬間が多々あるのも確かだ。例えば、天気が良いからたら出かけよう、などという約束。これをコンピュータに理解させようとすると、ややこしい条件を与えなければならなくなる。まともな人間ならば、天気が良かったらという条件で雨や雪なら中止」ということを瞬時に理解するだろう。ところが、コンピュータが相手の

(八面に続く)

**今日の紙面**

- 一面 オーラ面
- 二面 松本と話そう。ピン、ボン、パン・鼻血
- 三面 芸術面
- 四面 レイズ・ギャラリー
- 五面 カナダに行く・かくれみの通信
- 六面 アメリカン・レポート
- 七面 ヤンヒボ
- 八面 詩面
- 九面 みんなの詩
- 十面 七面 語面
- 十一面 中間日本語
- 十二面 八面 教養・トビックス
- 十三面 パバ堀井の法律教室
- 十四面 ひとまず最終回

からす新聞は学習塾カラースが母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行している新聞です。誰でも自由に参加できます(無茶じやない範囲で)。



## 松本と話そう。ピン、ポン、パン

20世紀の側でいたい人たちと21世紀の側でいる人たちの戦い

どどと来た。小淵内閣のまさに全体主義志向を強めんとばかりの法案の成立。新ガイドライン関連法(アメリカとの軍事同盟をより強固にする、より武力の行使を容易にするもの。)通信傍受法(盗聴法)ともいう、組織的犯罪に対しては裁判所の令状が出れば自由に国家権力が盗聴することが許される、どう考えても法律の依って立つ憲法の通信の自由に反すると思える法案。たとえば、僕と全太さんが、メールでどこそこの歯医者がいいとか、悪いなんて情報のやり取りをしたとしよう。これは、どう考えてもプライバシーの範疇のことであるのだが、警察がそれをカラズという組織内での反社会的、対法的行為と解釈するならば、裁判所のゴーサインがあれば自由に好きに盗聴、あるいはメールのやり取りを番けるという、とても権力側に都合がいいものなのである。『なに、警察ったら、正義を行使するのが職務なんだから、市民を守ってくれるんだから、大丈夫。』とか、『裁判所は法の番人なんだから、そんな勝手なことするわけないだろう。』なんて日テレのワイドショー見ているようなこと言ってるやつ、せいぜい有田さんの相手でもしてる。いやなら、歴史の教科書のどこでもいいから開いてみる、権力の言う正義なんてものは、最も権力にとっての都合のいい正義なんだから。なに?まだピンと来ないと、じゃ、戦前日本の正義は、なんだったんだ?裕仁だったろう?その正義は1945年を境にどう変わったんだ?命を捨てるのが美德とされてたのが、命を粗末にするのが悪徳というようにマッカーサー上陸と共に一瞬にして変わったんじゃないか。そんな権力のどこが信頼できるのか。権力は、自らの保身のためならいかようにでも変わるのである。だから、例えば、僕と全太さんが交わす言葉が、いつでも変わりうる権力の価値観にそぐわなくなれば、いつでも権力に盗聴される可能性を秘めた、そしてそれを最終的には押さえ込もうとする法案なのである。)そして、国旗国歌法(みなさん、御存じのとうり、『君が代』を国歌、『日の丸』を国旗として法的に定めるものである。ちなみに、この法案の推進役を果たした、野中弘務内閣官房長官は、'今の若者に、日本人としての誇りを将来的に持ってもらいたいというのが、この法案の狙いだ。'なんてことを言っていた。僕には分からない。日本人の誇りなんていうのが、でも、松本巖の誇りはある。もちろん、君には君の、彼には彼の、奴には奴の、何人かは分からないが誇りがあるのは当然である。それが、個々の依って立つ処なんだから。それが、『人の』と言われたとたん、一気に分からなくなる。僕は偶然日本という国籍の人間として生まれてきただけのこと。アメリカに生まれていようが、北朝鮮に生

まれていようが、ポルトガルだろうが、エチオピアだろうが、ユーゴスラビアだろうが、月だろうが、冥王星だろうが構わない。僕には、僕の松本巖として依って立つところがある。民族の誇りなんて、いいかげん、今世紀中に死語にしないか。)の3法案のことである。あの、小淵つうのは、ある意味、超一流の政治家なのかもしれない。この1年で、これまでの自民党内閣が、何十年もかけてやろうとしてきたことをいとも簡単にやってのけたのだから。

さて、こんな、まるで本田勝一が言いそうなことを言ってどうしたいのか。さあ、市民のみなさん、このようなファッショ政治を食い止めるために次の、恐らく、来年度中にはあるだろう、総選挙で1票1葉の精神で立ち上がろう!と思ってるのか?そう、まさにそのとうりで、これ以上の自民党の横暴を食い止め、我々市民の良識ある意志を国政に反映してくれそうな、共産党を支持しようとする場を借りて訴えたいのです。一なんてことがあるわけないだろ。でなくて、総べて、自民党、自由党、公明党、民主党、共産党、社民党、をまとめて笑い飛ばしといてやろうか、そんな程度のことをしたかっただけのことです。

ハッキリ言おう。こいつらはみんな、保守であり、どこまでも鈍感であり、アホであり、20世紀という時間のなかの、大腸、いや肛門のところで出たがるのをいやがっているフンなのである。

明らかに奴らと違うところでちょっと勤のいいやつらは生きている。国籍、時間、空間、イズム、ワク、それらを取っばらったところで呼吸している。もう、はやくも、さっきの下世話な例えで言うならば、オナラとしてとっくに外に出て、新たな空気と混ぜり合っているのである。その一つの現れは、早いところというならば、ジョン・レノンや小野洋子なんだろうし、近いところでは宇多田ヒカルなんだろうし、もっと身近な例えでいうならインターネットの普及なのだろうし、とにかく、こちらへんにいる人たちは、意識していようが、いまいが、もう20世紀の世界には居ないのである。籍だの主義だの、そういう概念の基に集った連中のなかに、もはや意味を見い出していないのである。よりもむしろ、嫌悪感さえ覚えているのかもしれない。(反射的に多くの女子高生が中年男性を'オヤジ'と忌み嫌うのもこう考えれば頷ける。)

その、20世紀の世界を旧態依然としてひきずっている政党人たちは、そんななか、相手にされて無いのも気付かないまま、やれ、選挙の投票に行かないとはけしからん、だの、政治意識が低いだの、ボヤいてる。そして、相手にされないまま、彼等の言うところの『重要法案』作りを巡って騒いでいる。

可笑しくて、イチジク浣腸を打つ気にもならない。

さらば、20世紀。

## 読者からの投稿らん

### 鼻血

8月27日未明、世界陸上を見ていたら、いきなり、鼻のあたりがムズムズして、手をあてたら血がでてました。急いで、姉(村野絵梨)に報告すると、写真をとろってことになって、とりました。

みんなは最近鼻血がでましたか。でたらすぐに写真をとって、新聞にのせようじゃないか。

それでは...



Rei's Gallerly



## カリーズカナダ特派員 のづまさみち 能津真路、カナダに行く

ゴルフ 打ちっぱなし  
年間200カナダドル(1万5千円ぐらい)



タートルmountainの途中  
すごくいいながめ



supperの時間  
週3回ハンバーガー  
週2回ステーキ  
週1回スパゲッティなどなど、たまにK.F.C  
(ケンタ)がある。ふとりそう。

## 踊る大高円寺

秋の特別お祭りスペシャル からすはなんでもしっている？

かくれみの通信

高円寺の夏といえば、なんといっても**阿波踊り**。好きとか嫌いとか、興味があるとかないとか、踊るとか踊らないとか、そんなことに全く関係なく、高円寺の夏は阿波踊り一色です。

阿波踊りはお祭りです。もともとは、氷川神社のお祭りの一環として行われたもので、それがいつのまにか、本場 徳島と肩を並べるほど、大きなイベントになりました。どのくらい大きいかというと、東京の全人口の、約1割に当たる、100万人以上の人出があるそうです。

日本のどこに行ってもあるお祭りですが、その菰態はさまざま。大きいも、小さいもの、有名なもの、無名なもの、派手なもの、地味なもの。しかし、その心は一つ。楽しむことです。

大昔の人は、「今日は、イノシシがとれたからパーアツとやるか」とか「今年は豊作でよかったなあ。よしっ、お祭りだあー」とかいは、飲んで食べて、唄っては踊っていたはず。男も女も、子供も大人も、みんなにとって、楽しいことだったにちがいない、お祭り。しかし、今はちょっと事情がちがいます。「エー、おまつりいー、いかなあーい」とか「うちでファミコンやってるほうがたのしいよー」などなど、楽しいことは人それぞれでさまざま。大人はともかく、子供に、お祭りより優先するものがあるとは・・・。

今年も例年どおり、8月27.28日に行われた高円寺の一大イベント、阿波踊り。めずらしく、2日間とも高円寺にいた私ですが、観たのは両日ともスタートだけ。かくれみのが、高南通りのスタート地点に近いせいもあるけれど、祭りのハイライトは始まる瞬間にこそある、と思っっている私は、せっかくだからそこだけは観ようと、出かけて行った次第です。

時刻は、夕方の6時30分。合図と共に、一斉にお囃しが鳴り、みんな楽しそうに踊りだしました。その中であって、さえない顔が多いのは子供で、あまり楽しんではいなそう。そうはいっても、かなり幼い子が多

いようで、楽しめというほうが無理な話かもしれない。

もう一つ気になったことは、見物人の中に、子供の姿がほとんどみられないこと。それも、いたしかたないように思う。どの通りもあんなに人でグチャグチャでは、背の低い子供の目には何も映らないだろうし、沿道で売られているビールや、ヤキトリや、ヤキソバにしたって、子供たちを引きつけるほど、魅力的にはみえない(大人はかなり、引きつけられている)。

そういえば、昼間、氷川神社にお参りに行ったときには、たくさんの子供がいた。氷川神社は、テキ屋さんが店を出すことを許された唯一のところ。やはり、あやしいおじさんが売っている水アメや、ふしぎな味のするソースせんべいの方が、子供にとっては、魅力があるらしい。

すっかり、イベント色が強くなった感のある、高円寺の阿波踊り。どこの祭りも一緒かなあ。いや、それは私の思い過ごしであってほしい。私の生まれ育った町はどうだろうか？**芝・三光町の氷川神社**の祭りは、老人の日だったはず。今年行ってみよう。私も例にもれず、お祭り大好き少年。初めてかついだ神輿の重かったこと、風呂がある子もない子も銭湯に集まって大騒ぎしたこと、ずらっと並んだ夜店のかげやき、などなど思い出しているうち、夜が明けてしまった。窓をあけると、祭りで出たゴミの山に群がるからすたち。まるで、絵に描いたような、祭りの後の光景。でも今日は日曜日。ふだんならゴミの収集はないのに、どーしてからすは知っていたのだろう？(新井)

阿波踊り・・・徳島の盆踊り。お囃子と踊り子から構成される連を組み、町中を踊り歩く。徳島の旧国名は阿波であることから。

芝・三光町・・・現在の港区・白金。地元では、こう呼ぶ人が多い。氷川神社のお祭り自体は小さいが、6年に一度出る神輿は、東京で一番でかいと言われている。ということは、日本一、いや、世界一かも。

# ヤンヒポのビバN.Y.(2)

前回は地下道で出会ったジャマイカンのカップルを見かけたところまでだったと思う。その後は、、、、

そろそろ歩くのにも疲れて来たので宿の方角の出口から地上へ出た。そこはペンステーションという大きめの駅で通り出ると深夜なのに人々がたむろしている。極く限られた人種だが、、、。かなり陰湿な雰囲気が漂っている。3分に1回は制服警官が二人組で巡回してくる。少しでも違法行為があると排除して回っている。その辺りを一通り見て回った後、宿の方角に歩き始めた途端一人の×××が寄って来て「×××××、×××××」と小声でささやいて来た。流石のヤンヒポも彼に写真を撮らせてくれとは頼めなかったのである。

次の日はN.Y.へ出向いた用事を予定より早めにこなした。なぜならヤンヒポはマンハッタンを空から眺めるといふ何とも楽しい企画を実行に移したからだ。幸い観光ヘリポートが直ぐ近くに有る事が解ったので取り敢えず行ってみる事にした。するとあっさり乗ってしまったのだよ、これが。料金は15分で154ドル、少し高い気もしたがここは一つ機飛んでくれた。

マンハッタンを上空から見ると地域の特徴がよくわかる。メインはやはりミッドタウンでいわゆる摩天楼。高いビルがひしめきあっている。南のダウントンはウォール街もあり経済の中心にふさわしくデザインの高い高層ビルが幾つも立っている。北のヤンキースタジアムでは大リーグの最中だった。都会のオアシスという言葉通りのセントラルパーク、当時このネーミングには問題が有ったらしい。作った当初はマンハッタンの外れだったのだ。しかし、今では文字通りセントラルパークになっている。一番印象的だったのはセントラルパークのすぐ北側にある、それ以外の地域とは明らかに違う低層地域が広がっていて上空から見ても荒廃している様子が伺える。そう、それが正しくハーレムなのだ。しかし、最近では以前ほど犯罪発生率も高くなく昼間は観光客が入り



込んでも問題無いようだ。路地裏にさえ入らなければ、、、。当然、×××の不良グループが抗争を繰り返しており、その連中は窓に近寄らないという。窓から顔を出すと狙撃的になり二度と外の景色を見る事ができないとの事。残念ながらヤンヒポはハーレムに足を踏み入れられず見学してこれなかったが、次回は真っ先に潜入してレポートしてみたいと思う。ゴスペルなどは一見の価値があるはずだ。

しかし、ヘリって乗り物はいつ落ちてもおかしく無い乗り物だ。なんせ構造上浮力を一切持っていないのだから、、、。

マンハッタンの喫煙事情はカリフォルニアとはだいぶ異なる。最近、ヤッピーの間では葉巻(シガー)が流行していてシガーバーという葉巻専用のバーまで有るらしい。カリフォルニアは州法によりパブリックな室内は一切禁煙だ。当然バーも含まれる。バーまで禁煙になったのは昨年4月からの事だ。喫煙者にとってはかなりつらい現実だ。喫煙したければどうしても外に設けた席に座るしか無い。しかし、屋外での飲酒は一切禁止されているのもカリフォルニアの州法だ。ビーチで缶ビールも呑めないのがカリフォルニアなのだ。要は自宅以外では酒とタバコを同時にヤル事はできないのだ。そんな習慣に慣らされているヤンヒポにはN.Y.の喫煙事情にはいささか驚いた。少し大きめのレストランには大体待ちあい用のバーが併設しており、食事用のテーブルが空くまでの時間をそこで過ごす。そこは全て喫煙が可能なのだ。レストランによっては全面禁煙の所も有るし、全面喫煙可の所も有る。オーナーの意向次第らしい。驚いたのは空港内のレストランも喫煙席と禁煙席が有る。米国内をはじめ、米国路線の国際線の関係は全て禁煙が義務づけられているにもかかわらず、、、。しかし、よくよく考えてみるとカリフォルニアでは屋外での喫煙を認めているがN.Y.でもそれを適用するわけには行かない。なぜなら、夏場は良いとしても真冬に人が死ぬ程寒くなるのに外でタバコを吸えというのは道理に合わないのだと思うヤンヒポだった。

さて今回も予定行数になってしまったのでここまでしよう、、、。チャオ。



家出

クロ

がんじがらめの  
息苦しさで  
行けるところまで  
行こうとする  
目的地に着いてしまおうのが  
おそろしくて  
最終の夜行に乗り継ぐために  
薄いセーター一枚で  
改札の外にある待合室にも  
入れずに 駅の階段で  
ふるえている  
組んだ腕のなかに  
顔をうずめてしまうと  
柱に吹きつける風の音が  
つめたくて  
どんな歌も聴こえてこない  
心は いつも  
方角だけを頼りに  
霧のなかに消える線路につづく  
今夜のことを忘れまいと  
その心を どこかへ  
届けたいと思っている

十年後の私は  
たしかにそれを受け取った  
足あとを闇のなかに消え  
私は 決して  
許しあつたわけではなく  
偶然が刺し違える音ばかりを  
聴いていたのかも知れなかった  
心は いまも  
方角だけを頼りに  
まだ見ぬ土地と人間につづく  
今夜のことを忘れまいと  
この心を だれかに  
許されたいと願っている

詩

跡切れた足跡

佐藤良示

雑踏と喧騒 束縛と嫉妬  
我が精神には安息日が必要と  
田舎の浜辺に腰を坐ろし 流れゆく景色を眺める  
精神の安息は 私にとつて 夢想に耽ることであり  
その事は 此の上なく 私を楽しませてくれた  
私を取り囲む五感は 恍惚感に陥り  
忘我の極地へと誘ってくれる  
不死不朽 私の魂は 精神の神棚に祭り上げられて  
然し乍ら 柳腰の女性が和服を着て踊るように  
浮遊と舞っている  
若き青春時代の頃  
泉の如く想像が私の夢想の中から浮かび  
私を楽しませてくれた  
なのに現実が夢想が追憶に変化し  
悲哀の思い出しが脳裡を疾走しない!!  
波打ち際の白き砂に残した  
長く曲がりくねった私の足跡・・・  
所処 波浪に そして通り過ぎる海風に  
打ち消されてゆく その足跡が  
今の私の精神の哀しさを表現している

幻滅

若尾喜重

期待と夢を ふくらませて列車は 出ていった  
楽しみは 待つている間にある  
現実には いつも空想を 凌駕出来ない  
今日も 雨が降っている  
夕方になつても 蝉は泣いてくれない  
明日も 雨だろ  
去年も そうだった  
なぜ 熱帯低気圧は お盆が好きなのだろう  
白馬岳も 鹿島槍ヶ岳も 何も見えない  
不吉な雨 危険な溪流釣り  
岩に当たって ぶらぶらになつた指二本が  
青ざめる  
大変だ 大変だ どうしよう  
骨が痛い いや 痛いのは骨ではなく  
錯覚だ  
大変なんてことは この世にないのだ  
なんでも 直に慣れしてしまう  
大変なのは 空想で 現実には 時間だ  
とどまることを 許さない  
テレビの中の 悲惨な民族的殺戮も 自分の骨さえも  
きれいさっぱり 忘れてしまふ  
なんて人間は 幻滅なのだ

伊東先生だ



平成の赤木圭一郎、じょじ伊東が  
出演する芝居が、来る10月、高円  
寺の明石スタジオにて公演予定

はじめまして。と言うよりは、お久しぶりですと言うべきです。3年ぶりに戻って参りました。4年振りかな。まあ、そんなことはどうでもいいんですが、ここ3、4年の間、何をやってきたかという、劇団なんぞに所属して、一ヶ月ぐらい富山の山奥に合宿したり。九州くんだりまで、トラックで行ったりとか、旅芸人のような事もしておりました。そこそこのギャラ(給金)も出ていましたし、食事も勿論ついていましたので、生活には困りませんでした。何せ拘束時間が長いのと、長い間、自由奔放な生活に慣れ親しんでいたため、集団生活に馴染まないのと、結構大変な思いをしました。今となってみれば、いい経験をしたと思います。

最近、芝居をやっている、人に教えたりすることが増えてきました。勉強でも、芝居でも、人に教えるということには、共通点があります。十数年前に、講師と芝居を、同時期に始めたのですが、当時は、自分に余裕が無かった所為で、人間が成長するのを待つことが出来なかったですね。2、3年続けているうちに、ああ、こいつら成長しているんだ、と言うことが、分かるようになって、それから、両方とも、面白くなっていきました。

少しづつだけれども、変わっていくんですね。それが進歩なのか、後退しているのかは、分からないのだけれど、長いスパンで見ると、結果的には、以前よりは、成長しているんだな、と感じることが出来る。これって、嬉しいことなんですね。それが、他人でも。勿論、自分のこととなると、なんか新しい発見をしたみたいに、有頂天になったりするわけです。後で、冷静になって考えてみると、大したことなかったりすることが多いんですけど、一度そういう感覚を味わってしまうと、なかなか辞められなくなるんですね。

そういうわけで、これからも続けていきたいと思います。今回は、挨拶がわりということで、これまでに。(伊東)

# 英語＝日本語

中学生や高校生が、英文を訳すときに使う日本語というのは、実生活に照らし合わせてみると、まことに不自然に聞こえます。特に会話。最近学校では、会話重視ということで、それなりにくだけた日本語も使っているのかもしれないけれど、まだまだ変。

たとえば、中1の教科書にこんな会話があります。友だち同士の会話です。お祭りでケンのお父さんが太鼓をたたいている場面です。

Ken : That's my father.  
Tom : He plays the drum very well.  
Ken : Yes, he is.

これを、とりあえず、こんなふうに訳します。

ケン : あれは私のお父さんです。  
トム : 彼はとても上手に太鼓をたたきます。  
ケン : はい、そうです。

まあ、仕方ないでしょう。確かに変な日本語ではあります。でもこれは、英語と実生活の日本語との間の橋渡しをする役目の「中間日本語」とでもいうべき言語なのです。

日本語ではしばしば省略されてしまう主語が、英語では必要。英語を学ぶ過程で、主語が必要なんだと知るためには、「中間日本語」のようなものがなくてはならないのです。

でも、実際は上のような会話ってないわけです。いちいち「彼」なんて言うことはないし、第一、ふつう友だちのお父さんを「彼」とは呼びません。友だち同士の「です・ます」もおかしい。そこで、次の段階では、こんなふうに訳してみる。

ケン : あれ、あたしのお父さん。  
トム : 太鼓がすごく上手だね。  
ケン : そうでしょ。

あるいは、こんなものもある。

ケン : あれ、俺のおやじだよ。  
トム : 太鼓すげえうめえじゃん。  
ケン : だろ。

いいんです、こうやって訳して。英文のしくみを「中間日本語」でマスターしたら、どんどん次の段階、つまり自然な日本語で訳すように心がけましょう。だいたい、「my」はいつまでたっても「私の」というんでは、あまりにも芸がなさすぎる。「俺の」とか「僕の」とか「おいら(死語か?)の」とか、女の子なら「あたしの」とか「あたし(死語か?)の」とか、いろいろある。呪いをかけられたように「です・ます調」一点張りっていうのも、考えものです。

次の会話文を、あなたはどんなふうに訳しますか？ 親子の会話です。

What time is it now?  
I don't know.  
It's eleven thirty. You're too late, aren't you?  
.....  
What were you doing?  
I was playing with my friends.

「中間日本語」では、こんな感じ。  
「いま何時ですか」  
「私は知りません」  
「11時半です。あなたは遅すぎますね」  
「.....」  
「あなたは何をしましたか」  
「私は友だちと遊んでいました」

現実的な線としては、こんな感じでしょうか。

「いま何時なんだ」  
「わかんない」  
「11時半だ。遅すぎるんじゃないか」  
「.....」  
「何やってたんだ」  
「友だちと遊んでた」

では、この調子で、今度は日本語を英語にしてみましょう。

「この単語わかんない」  
「あんたまた、なんも考えんで聞いたな」

「中間日本語」にします。  
「私はこの単語を知りません」  
「あなたはまた、なにも考えることなしで聞きましたね」

さらに英語にすると、こうなります。

I don't know this word.  
Again, you asked me without thinking anything, didn't you?

「中間日本語」をうまく活用できることは、英語の達人への道に通ずるわけですが、やはりそれは道具に過ぎません。川の向こう側に渡るための橋のようなものです。ひとつ飛びにジャンプできるようになるまでは、お世話になるとしても、跳躍力がついたら、もう要らないもの。どうでしょう。あなたも、生の日本語で訳すということをもっとやってみてはどうでしょう。(望月)



Ken-ichi Shinozaki, architect

5-12-3 Asagaya-Kita, Suginami-ku, Tokyo,  
Telephone & Facsimile: 81-3-3223-0456;  
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ

## 中山歯科クリニック

診療時間.....AM9:00 ~ PM9:00  
水曜・土曜.....AM9:00 ~ PM6:00  
休診.....日・祭日

03-3381-1109

# パパ堀井の法律教室

前回で未成年者の説明は終了しましたが、未成年者以外にも行為無能力者とされる場合があります。条文は、

第七条 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ家庭裁判所八本人、配偶者、四親等内ノ親族、後見人、保佐人又ハ検察官ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告ヲ為スコトヲ得第十一条 心神耗弱者及ヒ浪費者ハ準禁治産者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

まず、「禁治産者(きんちさんしゃ)」と呼ばれる人ですがこれはどういう人かと言つと、ポイントが2つあります。1つは、その人が「心神喪失」の状況にあることです。心神喪失というのは、意思能力が全くない状態です。では「意思能力」とは何でしょうか? これは、物事は是非善悪を判断する能力のことです。つまり、何が正しくて何が間違っているのか判断する能力です。この能力が欠けているというのが要

## 一面の続き

場合は、目的地における時間当たりの降水量がミリ以上なら雨、などという条件付けを必要とする。雪の場合、雪の場合、連続降水時間が五分以上なら、などと、事細かに指定しなければならぬのだ。相手が人間なら、天気が良かったら一言で済み、曖昧な天候の場合は放っておいても、「この天気だと今日はどうしますかねえ」などと問い合わせの電話がかかってくることになる。簡単なことだ。

「ちよつと飲みに行つたか」などと誘いもコンピュータには通じない。』ちよつととは、ビールなら大瓶一本、日本酒なら一合、テキーラはダブルまでです。など確認される羽目になる。ちよつとと言つたつて、勢いがつけば朝まで飲んだりすることだってあるわけだが、そんなことをコンピュータに教えようと思つたら、それはもう大事だ、そんな面倒なことをするくらいなら飲むのを諦めた方が早いほど。」

コンピュータをはじめとする機器の類とつきあつたには、相手は杓子定規な堅物屋なんだと思

件の1つです。それとともに、もう1つ。単に心神喪失状態にあるというだけじゃだめです。さらに、「家庭裁判所が宣告」する必要があります。「心神喪失」プラス「家裁の宣告」、この2つ要件があつて初めて禁治産者になります。何故でしょうか? 例えばお酒いっぱい飲んで泥酔状態になつたとすると、それは心神喪失状態です。どうやって帰つたのかも覚えていないんだけど起きてみたら家にいたなんてことはよくありますよ。私も時々そうなります。しかし、私は禁治産者じゃありません。何故かという、家裁の宣告を受けてないからです。また、「寝てる状態」では皆さん是非善悪の判断できませんから心神喪失です。でも皆さんは禁治産者じゃありません。それは、やはり家裁の宣告を受けてないからです。

さて、行為無能力者にももう1つ、「準禁治産者」というのがあります。準禁治産者のポイントも、やはり2つあります。1つは、「心神耗弱」の状況、あるいは、「浪費者」であることです。さて、「心神耗弱」ですが、これは意思能力が不完全な状態を指しています。意思能力があることはあるけど、不完全な状態である。これを心神耗弱と言います。つまり

うしがない。一時期、洗濯機や扇風機、何でもかんでも、ファジー(曖昧な)を売り物にした製品が流行つたのを覚えている人も多いだろう。しかしながら、あの曖昧さは見せかけのものではない。結局のところ、もともとプログラム自体をプログラマー(人間)が作成しているわけ、本当の意味での曖昧さを機械が実現しているわけではなかった。買つてはみたものの、いざ動かしてみたら少しもファジーではなかった、という苦情を少なからず耳にしたものだ。

この宇宙はアナログなものだ。時間には切れ目はない。それでも、私たちは、夏を切り取り、宵を切り取る。若さを、老いを切り取る。「今」と言つたつて、言っているそばから「今」は飛び去つてゆくのに、何の疑問もなく人々は「今」を語る。この、物事を曖昧に把握する能力は、言わば、諸刃の剣であろう。ちよつとした勘違いから大きな失敗に至ることもあるだろう。けれども、多くの場合、貴重な時間や頭脳を無駄に消費することから守ってくれるのだ。だって、そつたら、「天

「是非善悪を判断する能力が不十分な状態」です。次に、「浪費者」ですが、これはそのまま、つまり、財産を前後の見境なくあればあるだけ使つてしまふ人のことです。そして、この場合もやはり家裁の宣告を受けた人だけが準禁治産者となります。したがつて準禁治産者は2種類あります。心神耗弱で家裁の宣告を受けた者と、浪費者で家裁の宣告を受けた者です。この2種類あります。ところで、禁治産者と準禁治産者はどう違うのかということですが、これは程度問題です。禁治産者は判断能力が全くない状態で、準禁治産者は少しはあるということ。準禁治産者についてはまだ細かな規定が沢山あるのですが、来春大幅な改正が成される予定なので、説明は省略します。と言つて、以上で行為無能力についての説明は終了です。

## Daddy's Law School

編集後記  
からす新聞第十六号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は九月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

**リア**

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号  
03-3379-1451

来社見学を御希望の方は左記のところへ。丸ノ内線新中野駅徒歩〇分

当社(4F)

中山歯科 2F

とみん銀行

おうめかいどう

新中野駅

杉山公園

廣天園

(全太)